

たの づつ  
楽しんで、続ける

りゅうきゅうこてんおんがくのむらりゅうほぞんかい しはん こうち みつお  
琉球古典音楽野村流保存会 師範 幸地 光男

なんべいけんしゅうせい みな げんき  
南米研修生の皆さん、お元気でしょうか。

うらそえし なんべい まいかいたの  
浦添市の「南米からのおたより」を毎回楽しみにしています。

みな かくほうめん かつやく すば かんしん  
皆さんが各方面で、それぞれ活躍しているのは、とても素晴らしいと感心しています。

けんこう じゅうじつ かつどう ねが  
これからも健康で、ますます充実した活動をされることを願っています。

なんべいけんしゅうせい うたさんしん と と はなし  
ここで「南米研修生」と「歌三線」について、取り止めのない話をします。

わたし けんしゅうせい いっしょ さんしん れんしゅう たの しあわ じかん  
私にとって、研修生と一緒に三線の練習をしたのは、とても楽しく幸せな時間で

した。せんしゅう こんしゅう みな すこ じょうたつ  
先週できなかったことが今週はできるようになり、皆さんが少しずつ上達し

ていくのが頼もしくおもえました。

ひとり こせい あ おし ひつよう かた さんしん も かた かま かた  
一人ひとり個性が有り、教える必要もない方もいれば、三線の持ち方から構え方、

とき すわ かた しせい なお ひつよう あ さまざま  
時には座り方や姿勢を直す必要が有ったりと様々でした。



まいしゅうじょうたつ けんしゅうせい れんしゅう たの じかん  
【毎週上達していく研修生との練習は、とても楽しい時間です。】

わたし かんが おきなわ うたさんしん たんじゅん おんがく き りん すがた  
私が考える沖縄の歌三線は、単純に音楽を聴いてもらうだけでなく、凛とした姿

で「演奏を見せる」のが素晴らしいと思っています。ですから、研修生には姿勢につ

いても、<sup>あ</sup>敢えて<sup>してき</sup>指摘しました。<sup>もちろん</sup>勿論、<sup>ひとり</sup>一人で<sup>たの</sup>楽しむのも<sup>あ</sup>有りですよ。<sup>おんがく</sup>なにせ音楽って  
「<sup>おと</sup>音」を「<sup>たの</sup>楽」しむものですから。

<sup>わたし</sup>私は、これまで<sup>しもじょうまさるせんせい</sup>下茂門勝先生の<sup>もと</sup>元、<sup>うたさんしん</sup>歌三線を<sup>べんきょう</sup>勉強してまいりました。<sup>ひじょう</sup>非常に<sup>にんたい</sup>忍耐  
<sup>つよ</sup>強い方で、<sup>わたし</sup>私がある程度できるまで<sup>ていど</sup>丁寧<sup>ていねい</sup>に<sup>しどう</sup>指導していただきました。<sup>す</sup>むろん、直ぐに  
<sup>しあ</sup>仕上がるはずも<sup>な</sup>無く、<sup>とき</sup>時には<sup>ししやう</sup>師匠<sup>なに</sup>が何を<sup>してき</sup>指摘しているのか<sup>りかい</sup>さえ理解できない場合<sup>ばあい</sup>もあ  
りました。<sup>なんねん</sup>何年も<sup>つづ</sup>続けて<sup>い</sup>行く<sup>うち</sup>内に、<sup>だんだん</sup>段々と<sup>ししやう</sup>師匠<sup>おも</sup>の<sup>つた</sup>思いが<sup>よう</sup>伝わる様になってきました。

このように、<sup>おきなわ</sup>沖縄に住んで、<sup>す</sup>師匠<sup>ししやう</sup>の<sup>もと</sup>元で<sup>りゅうきゆう</sup>琉球<sup>こてんおんがく</sup>古典音楽<sup>まな</sup>を学んでいる人は、より<sup>きび</sup>厳  
しくオリジナルに<sup>ちか</sup>近づけるよう、<sup>ひびけんきゆう</sup>日々<sup>けいこ</sup>研究して<sup>つづ</sup>稽古を続けています。

ですが、<sup>なんべいけんしゅうせい</sup>南米研修生が同じようにやろうとすると、それは<sup>あ</sup>つらいものが<sup>おも</sup>有ると思  
います。そこで、<sup>けんしゅうせい</sup>研修生には<sup>はや</sup>早めに<sup>さんしん</sup>三線に<sup>なじ</sup>馴染んでもらう様、できるだけ<sup>かんりやく</sup>簡略な<sup>かたち</sup>形で  
<sup>なが</sup>流れを<sup>とら</sup>捉えてもらいながら<sup>けいこ</sup>稽古しました。つまり、<sup>ひじょう</sup>非常に<sup>こと</sup>シンプルな<sup>おし</sup>事しか<sup>おし</sup>教えてい  
ません。



<sup>ねんけんしゅうせい</sup>【2018年研修生のナタリアさんは、<sup>さんしん</sup>三線への<sup>おも</sup>思い入れが<sup>い</sup>特に<sup>とく</sup>強<sup>つよ</sup>かったと<sup>きおく</sup>記憶しています。】

なので、<sup>けんしゅう</sup>研修が<sup>お</sup>終わって、<sup>ぼこく</sup>母国へ<sup>かえ</sup>帰った<sup>あと</sup>後も<sup>うたさんしん</sup>歌三線を<sup>たの</sup>楽しみながら<sup>けいこ</sup>稽古を<sup>つづ</sup>続け、  
<sup>なんねん</sup>何年も<sup>けいぞく</sup>継続することが、<sup>いちばんだいじ</sup>一番<sup>かんが</sup>大事な<sup>いろいろ</sup>ことだと<sup>おんがく</sup>考え<sup>き</sup>ます。色々な<sup>おんがく</sup>ジャンル<sup>き</sup>の音楽を<sup>き</sup>聞い  
たり、<sup>ほか</sup>他の<sup>ひと</sup>人の<sup>えんそう</sup>演奏<sup>み</sup>を見たり、<sup>さんこう</sup>またそれを<sup>さんこう</sup>参考<sup>じぶん</sup>にして<sup>ひ</sup>自分<sup>ひ</sup>でも<sup>うた</sup>弾いたり<sup>うた</sup>歌ったりして、

たの 楽しんでください。 じぶん へ た かん 自分は下手だと感じていても、 あ ひとまえ えんそう 敢えて人前で演奏をして、その

けっか 結果がたとえすこ 少しくらい まちが 間違ったとしても、 それでも よい のではないですか。 しょうしょう 少々

しっぱい 失敗も たの 楽しんでください。 なにごと 何事も その ようにして ひと 人は せいちょう 成長するものだと思います。



おおぜい かんきゃく まえ きんちょう たの えんそう  
【大勢の観客の前で、緊張しながらもとても楽しそうに演奏していました。】

ところで、 せかいじゅう しんがた 世界中で新型コロナウイルス感染症が かんせんしょう たいへん 大変なことになっていますが、 みな  
さんは大丈夫でしょうか。 わたし ほんとう ひつよう とき で 私 は 本当 に 必要 な 時 しか 出 かけ ませ ン。 か もの 買 っ 物 も ネット ス  
ー パー の デリ バ リ ー で、 ほ と ん ど すべ 全 て を ま か な っ て い ませ ン。 し か し、 ほ ん と う ふ じ ゆ う 本 当 に 不 自 由 な  
おも みな おな おも たす おも て い が た べつ  
思 い は 皆 さ ん と 同 じ で す。 こ れ が 有 っ た ら 助 か る と 思 う も の も 手 に 入 れ 難 く、 別 の も  
ので だいよう がまん れんぞく  
代 用 し て、 我 慢 の 連 続 で す。

コロナ禍の 唯一の かい こと 良 い 事 と い え ば、 ま い に ち き つ 毎 日 気 を 付 け て い る お 陰 様 な の か、 い ぜ ん く ら  
て ふう ぜ ひ な 風 邪 を 引 か 無 く な り ま し た。 と は 言 え、 い せ っ し ゅ は じ ワ ク チ ン 接 種 が 始 ま り、 コ ロ ナ ま ん え ん  
ま る よ う に も み え て き ま し た。

どうか みなさま しんがた  
皆 様、 新 型 コ ロ ナ ウ イ ル ス だ け で な く、 そ の た び ょ う き 他 の 病 気 に も な ら な い よ う に、  
けんこう き つ 健 康 に は 気 を 付 け な が ら が ん ば  
頑 張 っ て くだ さ い。